

令和6年度全建賞 推 薦 調 書
インフラ整備の事業又は施策の部(インフラの部)

ふ り が な	つまつさかこうかいがん ちよつかつかいがんほぜんしせつせいびじぎょう
1. 事業(施策)の名称	津松阪港海岸 直轄海岸保全施設整備事業
2. 事業(施策)実施期間(和暦)	平成4年度 ～ 令和5年度
3. 事業費(工事費)	41,000 百万円
4. キーワード	フラップゲート, 津松阪港, 海岸保全施設, 海岸堤防, ワークショップ
5. 事業概要	津松阪港海岸は昭和28年の台風13号及び昭和34年の伊勢湾台風により大きな被害を受け、災害復旧事業として整備され、約半世紀が経過し、海岸護岸等の老朽化の進行、地盤沈下に伴う天端高不足及び地震時に液状化の可能性があることが確認され、根本的かつ緊急的な対策が必要となった。 そのため、地域住民の安全安心を守るとともに背後の街づくりと一体となった親水機能などを含む多面性を持った海岸整備を、平成4年度より令和5年度までの32年間にわたり進められ、令和5年度末に総延長(約17.8km)の整備が完了を迎えた。

6. アピールする事業又は施策の「手段」と「秀でた成果」		
ハード or ソフトの分類 :該当する方に○印	① ハード面 に秀でた事業	② ソフト面 に秀でた取組
アピールする 1)「手段」	(b)新技術の積極的な活用 (e)断面形状・施工方法について工区毎の諸条件をさまざまな要素に照らして検討	(a)住民参加のワークショップ・見学会や有識者検討会の開催、
アピールする 2)「秀でた成果」	(a)ヨットハーバーや海浜公園へのアクセスと防護ライン機能の両立 (f)浸水被害に対する安全・安心が確保され、地域活動の活性化	(f)地域住民に親しまれる賑わい空間の創出

7. 特にアピールしたい点
本事業の対象範囲は津市から松阪市まで沿岸総延長17.8kmに及び堤防周辺の住宅・企業立地事情や親水空間としての利用状況も地区毎にさまざまであった。 その中で事業実施にあたっては、施工現場周辺への影響回避を念頭においた最適工法を地区毎に選定すると共に、ワークショップや有識者検討会を通じて地域住民の意見を幅広く反映させる等、海岸と街づくりが一体となった整備を行った。 その結果、本事業の実施により、浸水被害に対する安全・安心が確保された背後地域では企業の設備投資や公共施設新設等の地域活動が活性化し、地域住民に親しまれる賑わい空間へと変わりつつある。

8. 事業を代表する写真及びキャプション

香良洲地区



阿漕浦・御殿場工区



9. 事業内容・添付資料

◆津松阪港海岸 直轄海岸保全施設整備事業(概要)

【安全・安心な海岸堤防への生まれかわり】

老朽化や天端高不足が見られる津松阪港海岸の堤防(総延長17.8km)を全4地区(11工区)に分け、堤防周辺の住宅・企業立地事情や親水空間としての利用状況を踏まえた改良断面を工区毎に立案・施工、必要に応じ液状化対策の地盤改良も併せて実施し、最終的に伊勢湾台風規模の高潮を想定した標高+6.0mの堤防として再整備した。

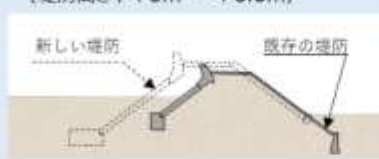
～事業概要～



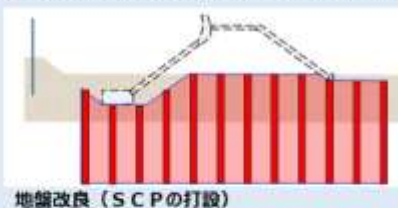
～実施した代表的な工事～

【工事内容】

・既存の堤防を一旦取り壊し、同じ場所に嵩上げて新たな堤防を施工
(堤防高さ：+5m → +6.0m)



・必要に応じて、堤防の直下部分の地盤改良を実施し、大地震時の沈下の原因となる液状化を防止



9. 事業内容・添付資料

◆断面形状・施工方法について工区毎の諸条件をさまざまな要素に照らした検討等 【①-1)-(e)】

- 海浜利用状況や景観・環境への配慮
(海水浴場については、砂浜への前出しを極力回避)
(白砂青松で親しまれる工区については、松林保全を考慮)
(自然石を活用した景観への配慮、海生生物との共生)
- 工事中の防護ライン確保が可能な構造
(堤防全撤去(+仮設締切矢板) or 既設堤残置(+腹付) 等)
- 周辺に立地する住宅・企業用地に配慮した低振動工法の採用
- 周辺での漁業等活動(海苔養殖、貝類畜養水引込)に配慮した工法採用 など



◆地域住民とのワークショップを基にした空間の整備等 【②-1)-(a)】

【合意形成と景観的統一の図られた海岸空間づくり】

一様とは言い難い工区毎の諸条件に起因する事業実施上の課題に対し、工区毎の諸条件を様々な要素に照らし検討し、地域住民によるワークショップと景観デザイン等の学識経験者による検討会を相互にフィードバックさせつつ継続的に行うことにより、地域住民の意見を幅広く反映させた海岸と街づくりが一体となった整備を行うことができた。

- 地域住民の海浜アクセスに配慮した階段・スロープ配置
(住民参加のワークショップ・見学会や有識者検討会の開催)



- ・バリアフリーを考慮してほしい
- ・階段の傾斜をゆやかにしてほしい
- ・階段を砂浜に張り出さないようにしてほしい
- ・堤防背後の接続道路から近い場所に階段を配置してほしい
- ・天端道路は広すぎないように(違法駐車の問題が起きる)
- ・堤防の高さはなぜ6m? (もっと高くなくて大丈夫?)
- 等々

◆新技術の積極的な活用 【①-1)-(b)、①-2)-(a)】

地域ごとに生じたスポット的な課題について、新技術の積極的な活用をもって解決した。

事例としては、阿漕浦・御殿場工区にて、ヨットハーバーや海浜公園へのアクセスと防護ライン機能との両立を図るために「フラップゲート」を設置した(幅20.6mのフラップゲートは、R6時点で国内最大級)。

【国内最大級！ 幅20.6mのフラップゲート式陸開】

概要

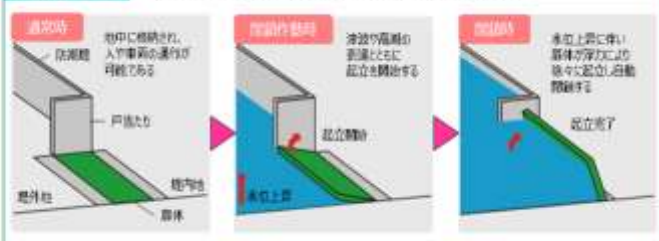
- ◆普段は、道路として自由に通行可能です。
- ◆高潮等で装置の下側に水が流れ込むと、「浮力」+「水圧」の力で扉が自動的に起き上がり、浸水を防ぎます。(電気も人の操作も不要)



- ※陸開(りくこう)：堤防の一部に設けた開閉可能な扉
(普段は通行できるように開放し、高潮等の出水時には扉を閉める)
- ※フラップゲート：排水路などに設けられる逆流防止の扉

作動イメージ

津波や高潮の浸水時には、下記のように作動します。



9. 事業内容・添付資料

◆事業の効果 【①－２）－（f）、②－２）－（f）】

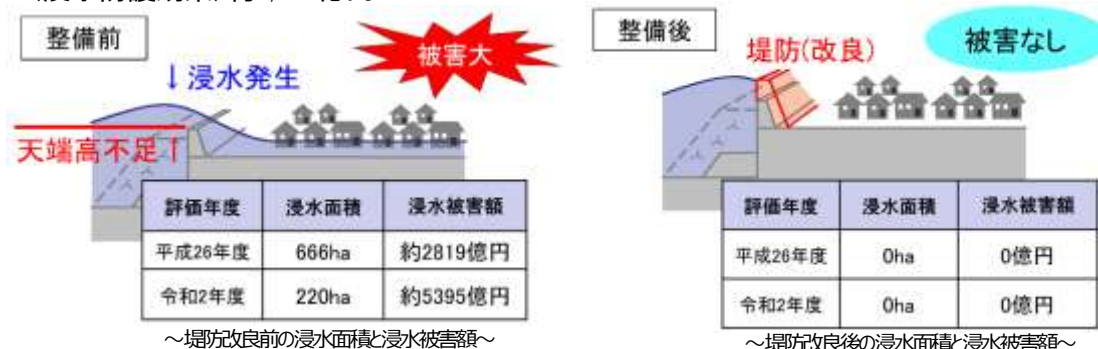
【浸水被害に対する安全・安心の確保】

本事業を実施したことにより、所要の計画天端高さが確保され、高潮による背後地域の家屋や事業所、農作物、公共土木施設等の浸水被害を防止することができる。その効果を定量的に算定（便益）した結果を以下の通り示す。

➤ 事業効果

（総防護面積） 4,228ha （防護人口） 10.1万人

（浸水防護効果）約8,200億円



【浸水被害に対する安全・安心が確保され、地域活動が活性化】

本事業個所の背後地域では、事業進捗による地域防災機能向上を見越して、企業・病院の設備投資や公共施設の新設等、地域活動が活性化している状況にある。



【地域住民に親しまれる賑わい空間の創出】

本事業の完了後、各工区では海岸を利用した地域イベントやスポーツ等が行われており、地域住民に親しまれる賑わい空間となっている。



花火大会の鑑賞
（松阪地区（西黒部工区））



潮干狩り（香良洲地区）



海水浴



ビーチバレー大会